

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7~14日目	第15~21日目	第22日目
治療内容										
検査	採血	○								○
診療	副作用の問診	○								○
	検査結果	○								○
	血圧測定	○								○
治療中止基準	①WBC 3000未満 ②血小板 10万未満 ③発熱・CRP上昇 ④PS 2以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
内服薬	ゼローダ錠2,000mg/m ² /日 1日2回朝・夕食後 14日間	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	休	↓↓ (朝・夕)
	ピドキサール錠 (10) 6錠分2	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)	↓↓ (朝・)
点滴	① 生食100ml +アロキシ0.75mg +デキサート 3.3mg×2A 点滴静注【30分】	○								○
	② 生食100ml +アバステン(7.5mg/kg) 点滴静注【初回：90分, 2回目：60分, 3回目以降30分】	○								○
	③ 5%ブドウ糖500mL +エルブラット(130mg/m ²) 点滴静注【2時間】	○								○
	④ 生食50ml ルートフラッシュ用 (全開)	○								○

☆ゼローダ錠：体表面積にあわせて、朝・夕食後30分以内に1日2回14日間連日経口投与し、7日間休薬

体表面積	1回服用量	減量段階1	減量段階2
1.36m ² 未満	1,200mg (4錠)	900mg (3錠)	600mg (2錠)
1.36m ² 以上1.41m ² 未満	1,500mg (5錠)		
1.41m ² 以上1.51m ² 未満		1,200mg (4錠)	
1.51m ² 以上1.66m ² 未満			900mg (3錠)
1.66m ² 以上1.81m ² 未満	1,800mg (6錠)		
1.81m ² 以上1.96m ² 未満		1,500mg (5錠)	
1.96m ² 以上2.11m ² 未満	2,100mg (7錠)		1,200mg (4錠)
2.11m ² 以上			

減量中止基準

血液毒性に対するゼローダとエルブラットの減量基準

グレード	発現回数	ゼローダ	エルブラット
グレード3	1	減量段階 1	100mg/m ²
	2	減量段階 2	85mg/m ²
グレード4	1	投与中止or 減量段階 2	投与中止or 85mg/m ²

臨床的に問題となる血液毒性が認められた場合は、臨床症状を総合的に判断する

非血液毒性に対するゼローダとエルブラットの減量基準

グレード	発現回数	ゼローダ	エルブラット
グレード2	1	変更なし	変更なし
	2	減量段階 1	変更なし
	3	減量段階 2	変更なし
グレード3	1	減量段階 1	100mg/m ²
	2	減量段階 2	85mg/m ²
グレード4	1	投与中止or 減量段階 2	投与中止or 85mg/m ²

看護のPoint!!

ゼローダで皮膚障害や下痢の可能性もある。持参薬に7-ファリンがあれば主治医に報告（ゼローダとの相互作用あり）
 エルブラットによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。
 主治医に報告し、次回からガモファー注とボラミン注の前投与を考慮する。（ガモファー錠と材料シシ錠でも可能）
 エルブラットによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。
 末梢からエルブラット投与時、血管痛あるかも。温めてあげたり投与時間をゆっくりしてあげる。
 アバステンは投与時間に注意。